

セッション6

会話術 パート1

社会の中で信仰によって生きる

フィリス・クロスビー著

会話術 パート1 会話に精通する

目的

会話は福音の伝達、社会的奉仕、文化的な関わりをするための入口です。この学びは、私たちの職場や市民グループなどで使われている言葉を用いて、福音(4つのすべての章)を分かち合うことを熟練するためのものです。これは、他の人たちがイエス・キリストについて、キリストが造られたこの世について、そしてキリストの福音についてよりよく理解するように導くために、技能を高めることを目的とした学びです。

第1章 街における会話

第2章 会話に精通する

技能1: 会話を評価する

技能2: 文脈を評価する

技能3: 心の応答を評価する

技能4: 根底にある信念を評価する

付録1: 創造の構造

付録2: アセスメントマップ

結論

推薦図書

The Revolutionary Communicator,
Medefind & Lokkesmoe, Relevant Books, Lake Mary, FL, U.S.A.

Evangelism Made Slightly Less Difficult,
Nick Pollard, InterVarsity Press, Downers Grove, IL, U.S.A.

第1章:街における会話

私たちの周りにはおびただしい数の会話がなされています。そのうちのいくらかは私的な会話ですが、多くはビジネス、経済、金融、グローバル化、社会構造の変化などに関する、継続してなされる公の会話です。気まぐれで楽しい会話もあれば、ホームレスの問題、戦争、育児放棄といった心を痛めるテーマについての会話もあります。

どのような分野、どのような職業においても、人々は会話に関係する営みに関わっています。科学者は倫理と研究について話します。技術者はコンピューターウイルスや最前線のプログラムについて話します。芸術とメディアにおいては、知的財産権が注目の話題となっています。ファッション、ビジネス、教育、その他様々な産業についての会話がなされています。

会話は、私たちのあり方や私たちの行いにおいて欠かすことのできないものです。それは、私たちが神のかたちに似せて造られたものであり、また、神が話し上手な方だからです。創世記には神が被造物について言葉で語ることによって生み出されたことが書かれています。創造の記事においては「ついで(そして)神は...仰せられた」という言葉が8回記されていて、その最後はこう締めくくられています。「そして神は、『われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。...』」と仰せられた(創世記1章)。

神ご自身と語られた言葉とは一つなので、イエス様ご自身も「ことば」と表現されています。イエス様はメッセージをもたらすだけでなく、イエス様ご自身がメッセージであられたのです。「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった」(ヨハネ1章)。語られた言葉には栄光と力があるのです！

墮落が起こる前は、言葉は指示を受けるため、労働において協力するため、被造物に名前をつけるために用いられていました。神はご自身の**本質**において性質上、コミュニケーターであられ、被造物に対するみこころを成し遂げるために、言葉は重要なものです。私たちも言語を用いることによって、仕事、礼拝、ミニストリー、つまりアヴォダ¹を成し遂げるコミュニケーターなのです。

しかし悲しいかな、コミュニケーションは造られた構造であり、特に言葉も、他の構造と同じように墮落のゆえに腐敗してしまいました。墮落の後、言葉は非難、告発、偽り、欺きのために用いられるようになってしまいました。詩篇 50:19 には、墮落したコミュニケーションについて記されています。「おまえの口は悪を放ち、おまえの舌は欺きを仕組んでいる。」また、ヤコブは語られる言葉の破壊力について示しています。「ご覧なさい。あのように小さい火がそのような大きい森を燃やします。舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。...しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています」(ヤコブ3章)。

箴言のいくつかの箇所では、言葉が墮落した方向にも、贖いの方向にも向かうことができる対照的なものであることが記されています。箴言 12:18 はこう述べています。「軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし知恵のある人の舌は人をいやす。」

¹ アヴォダとは、仕事、礼拝、ミニストリー、奉仕を意味するヘブル語です。アヴォダについてより理解するために「ミニストリーの性質」を参照してください。

コミュニケーションは贖われたものとなり得ます。知恵、親切、正義は、舌がもたらす贖いの要素のうちのいくつかにすぎません。詩篇 37:30 にはこう書かれています。「正しい者の口は知恵を語り、その舌は公義を告げる。」また、箴言 31:26 にはこう書かれています。「彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。」

コミュニケーションについて考えるとき、あなたが抱く最も理想的なイメージ、最も強い願いはどのようなものですか。もしかしたら、コミュニケーションの関係性について思い浮かべるかもしれません。コミュニケーションとは単に情報を伝達することではなく、互いに関わり合うことです。1 コリント 1:9 には、神が私たちが御子との交わりに「召しておられる」ことが記されています。神は私たちに情報を与えるのではなく、招いておられるのです。

メデフィンドとロックスマーは、「The Revolutionary Communicator (革命的なコミュニケーター)」の中で、英語の「communication」という言葉の語幹である「com」という言葉の意味を振り返っています。「com」という言葉は、「communication(コミュニケーション)」、「community(共同体)」、「compassion(あわれみ)」、「communion(聖餐式)」といった言葉にも使われています。ラテン語の接頭語である「com」は「共に」という意味なので、元来「communication」とは「共に分かち合う」という意味を持っています。i

私たちはコミュニケーションを取る時、共に分かち合うことを目指しているでしょうか。また、コミュニケーションを取る時、共同体という意識はあるでしょうか。メデフィンドとロックスマーはさらにこう述べています。「今日、私たちはコミュニケーションを、情報を発信し、受信すること、と定義している。」ii コミュニケーションとは単に情報をダウンロードすることである、という意味になっています。情報を得ることはインターネットやテレビなどを通してすることができ、個人的な関わりや分かち合いなどをせずに済みます。しかし、情報のダウンロードは会話においても起きています。

メデフィンドとロックスマーはこう結論づけています。「関わりを持つために親しくなることは、あらゆる実りあるコミュニケーションの土台である。」iii そのように他の人と関わることを通してこそ、周りの人々の生活に触れ、御国のために彼らに影響を及ぼすことができるのです。

この世に対してキリストを示そうとするとき、私たちは相手を中心とした寛大さをもって関係を築くようにしていく必要があります。私たちのスケジュールに沿って相手を動かそうとしたり、相手がクリスチャンになりそうだと思うときだけ愛そうとしたりするといった誘惑を退ける必要があります。私たちはキリストが愛されたように愛するべきです。つまり、無条件で愛するのであり、私たちのことを理解してほしいという思いとともに、相手のことを理解しようとする必要があるのです。

ですから、会話をする私たちの目標は関係を築くことです。会話には与えることと受けることの両面があります。つまり、聞くことと語ることの両方が含まれるのです。福音を伝えるとき、私たちは友人たちに彼らが生活しているこの世について、またイエス・キリストについて発見するように助けたいと思います。しかし、彼らの考えやアイデアにも関心を抱きたいと思うのです。私たちは、彼らをご自身との交わりに招いておられる愛の神を、彼らが見出すことができるように助けたいのです。ですから、私たちの会話は人々が神の声を聞くための一つの手段でもあるのです。

私たちは自分の考えを伝えるとき、他の人が真理を発見することができるように導きたいと思います。そのことは、私たちの会話の進め方を整え直します。情報を「ダウンロードすること」と、自己発見していくプロセスと、どちらがより効果的か考えてみましょう。どちらのスタイルのほうが、生活における変化を実際にもたらす可能性が高いでしょうか。

まず、会話において情報をダウンロードするとはどういうことでしょうか。会話におけるダウンロードとは、インターネットのように、非人間的な情報伝達です。質問したり、思い巡らしたり、考えたりする余地のない、一方的な会話です。そのような状況においては、語り手が会話を支配し、聞き手のことをほとんど知ろうとしません。聞き手が関心を抱いて

いるかどうかに関わらず、語り手は何かを語り、それを聞いてもらいたいと思っているのです。

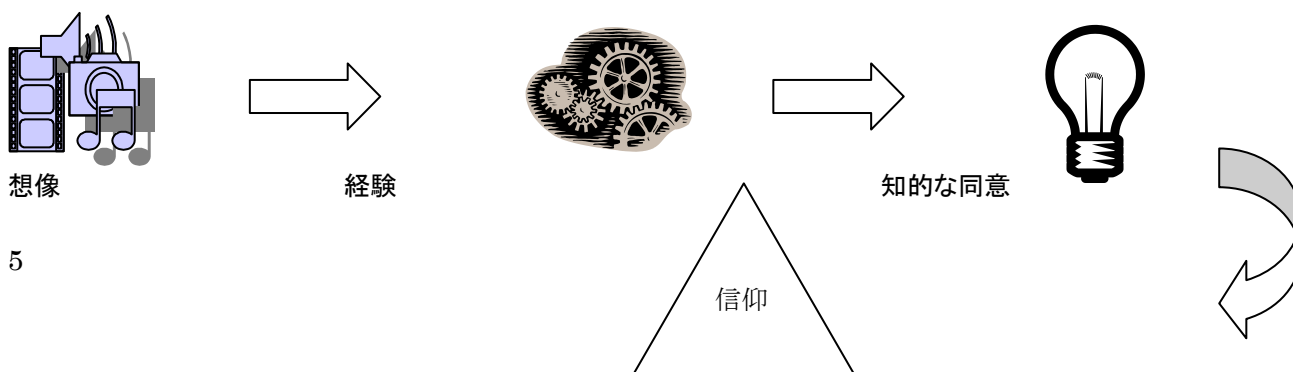
そのような会話は、私たちがしたいと願っている会話ではありません。私たちは人々に向かって言葉を投げつけるのではなく、会話に参加してもらいたいのです。人々は強制的に聞かされた考えについては距離を置こうとする傾向がありますが、思い巡らすことを通して得られた洞察は心の奥深くに入り、信念体系の中に根ざします。ですから、メデフィンとロックスマーはこう述べています。「自己発見された真理は、押し付けられたり、何も考えずにただ受け入れたりしただけの真理よりも、絶えず効果があり、長続きする。自己発見された真理は、必ず深く浸透し、長くとどまり、より包括的に影響を与えるのである。しばしば、それは生涯にわたって影響を及ぼし続けるのである。」iv

キリストを信じるまでのプロセス：人がキリストを信じるまでに自然と通るプロセスがあります。会話は、人々にそのプロセスを歩むように助ける一つの手段です。相手の考え方に異をとねえたり、行動を起こすように動機づけたり、新しく触れた真理の枠組みを築くように助けたり、今信じているものに対して不満を抱かせたりするとき、私たちはその人を新しい発見へと導くことができます。これらはすべて、イエス・キリストにある真理へと進んでいくことを助けます。ニック・ポラードは「Evangelism Made Slightly Less Difficult（若干易しくなった伝道）」の中でこう述べています。「もし私たちが本当に人々のことを心に留め、一時的にキリストを信じるだけでなく、キリストにとどまり続け、クリスチャンとして成長していくことを助けたいと思うなら、彼らが信じ始めた考えについて、十分に考えるように励まさなければならぬ。」v

もし私たちのメッセージを思い巡らすのに必要な時間を十分に与えないなら、彼らはそれが真理であると理解する前に、自分の人生をささげられることとなります。そしてキリストを信じる決心をしたかのように見えますが、すぐに考えを変えてしまうかもしれません。それに対して、彼らが福音の価値を理解し、福音を真理であると確信するまで機会を与えるなら、彼らは想像（福音とは何かについて考える）から経験（生活において福音が実践されているのを見る）へ、そして知的な同意（信じていることが本物であると知る）へと導かれます。ほとんどの人々は、事実から経験、そして想像へとというふうには導かれません。それは、私たちは真理を知的に知る前に、経験する必要があるからです。

恋愛について考えてみましょう。私たちはある人に魅力を感じたとき、その人をボーイフレンドやガールフレンドとするとうなるか、あるいはその人と結婚したらとうなるか想像し始めます。その人と一緒に生活がどのようなものとなるかを描いたなら、その人と付き合いおうという気持ちになります。私たちが想像していることが、経験の扉を開くのです。付き合い始めたなら、実際の関係についての真理を経験し始めます。もしその経験が望んでいたものであれば、その関係は良いものであると考え、経験から知的な同意へと進みます。知的な同意をしたなら、この場合であれば結婚するかどうか決心する準備ができたこととなります。

キリストを信じることも、ほぼ同じです。ある人が会話、生活における経験、また聖書の教えを通して、クリスチャンとしての生活はどのようなものなのか想像し始めます。想像したものが良いものであれば、真理についてもっと見たい、聞きたい、経験したい、それが本物であるかどうか試したい、と思うようになるでしょう。まずクリスチャンたちの生き方を観察したいと思うかもしれません。もし観察したことが良いものであり、本物であると思えるなら、キリストを信じ、受け入れることが実際に実現可能となります。



福音とは何かについて考える 生活において福音が実践されているのを見る 信じていることが本物であると知る

私たちの会話が相手の想像を促し、十分な経験を提供し、知的に納得いくものであるなら、福音の真理を伝達する可能性が高くなります。それはみな会話において起こり得るのですが、一回の会話で起こることはほとんどありません。ですから、福音の伝達は雪の結晶のように二つとして同じものはありません。福音がどのように宣べ伝えられたか聖書にあるイエス様や使徒たちの模範を調べるなら、オーダーメイドの洋服を作るかのように、一人一人に対してふさわしい伝え方をしたことがうかがえます。

伝道をプロセスとして、また、いくつもの会話をそのプロセスを導くための方法として考えるなら、福音の伝達について一回ごとに仕立てるといふ自由が与えられます。

私たちの生活は言葉で伝えるメッセージの文脈となる。ヨハネの福音書を読むと、イエス様ご自身がメッセージで「あられた」ことが分かります。イエス様の言葉と生活の両方が「光」、つまり神の真理を伝えたのです。アッシジの聖フランチェスコの「いつでも福音を宣べ伝えなさい。そして、必要なときに言葉を用いなさい」という言葉は、私たちの語るメッセージと私たちの生活とが関連していることを示しています。多くの人々は私たちの「言葉」に納得する前に、「その言葉が実際に行われているのを見る」必要があります。私たちは、人々が「目に見えない御国」を見て理解するための「御国を目に見えるように示す者たち」なのです。

御国の生活を生きたことは、御国のメッセージを語るための条件であり、生活に変革をもたらす会話をするための最善のきっかけとなります。私たちがキリストに似た者として生きるなら、私たちの生活は周りの人々にとって直観的に納得のいくものとなるか、あるいは、あまりにも直観とそぐわないために有意義な会話をもたらすものとなります。ニック・ポラードはこう述べています。「私たちは言葉だけでなく生活において、イエスの愛と力を示す必要がある。それとともに、人々が信じ始めた考えについても一度よく考えることができるように助ける必要もある。」^{vi} ですから、私たちの言葉や行いはどちらも片方だけでは十分ではないのです。私たちは良い生き方をするとともに、良い語り方、つまり会話術を身につける必要があるのです。

第2章 会話に精通する

会話を理解し、語るべきことを持つておく

ある与えられたテーマについての会話に精通するとは、話されているテーマと、その会話がどのように展開されているかを理解することです。その結果、語るべきことを持つことができます。会話に精通することは不可欠です。もし職場においてイエス様のことを語るできるようになりたいと思うなら、自分の職業について知る必要があります。もちろん、イエス様が語ろうとしておられることも知っておく必要があります。

会話に精通するとは、人々に対して彼らにとって大切な話をやめてもらい、私たちの話に参加してもらおうということではありません。私たちが彼らの会話に参加するのです。彼らの話を聞き、私たちも語ります。私たちは絶えずへりくだって学ぶようにします。時にはそのテーマについて、また彼らがそのテーマをどのように受け止めているかについて理解するために質問します。あるいは、質問することを通して、彼らの考えを、礼儀に反することなく挑発することもできます。

大切なことは、職場において継続して交わされている会話に加わり、その日に注目されているテーマに関わり、そのことに対してイエス様は何を語られるかを人々に分かってもらうことです。まず、イエス様がこの世に対して語ろうとしていることが、私たちが気づいているよりもはるかに多いことを理解する必要があります。以下に示す4つの技能は、仕事、余暇、あるいは市民活動といったことについての会話に精通し、会話の内容とイエス様が語ろうとされることを

理解することを助けるためのものです。

技能1: 会話を評価する

「原状」、「現状」、「可能性」、「将来」という枠組みを用いて、福音の4つの章を見極める

私たちの周りにいる人々はみな、彼らが生活している世界について語り、自分でも知らないうちに「御国のストーリー」について語っています。あなたはこう思うかもしれません。「ちょっと待ってください。私の職場には創造、墮落、贖いといったことを話す人は一人もいませんよ。」あるいは、職場の同僚たちが御国について語る唯一の方法は、あなたが彼らの会話に割って入り、話題を変えることしかない、と思うかもしれません。しかし実際には、人々はすでに福音について語っています。

職場の同僚たちがどのような会話をしているかを見極めるヒントとなる言葉は、「どうあるべきか」、「現状はどうか」、「どうなる可能性があるか」、「これからどうなっていくか」です。このような言葉を聞いたときに会話に加わるなら、御国のストーリーのどの部分について語られているかすぐにわかります。

例えば、中国の新聞に取り上げられていた、中国国内の鉱業についての話を考えましょう。その記事には、中国では鉱山における死者数が世界全体の80%であるにもかかわらず、生産される石炭の量は世界の生産量のわずかに35%でしかないと書かれていました。さらに、100トンの石炭を生産するのに、中国では事故による死者数がアメリカの100倍であると報じられていました。今年(2004年)の1月から9月までに、4153人の鉱山労働者が事故によって亡くなりました。鉱業の安全についての専門家は人民日報に対して、中国の鉱山における安全確保の不備は、鉱業の自動化の欠如、備品の質の悪さ、労働者の技能のなさ、そして技術開発に対する投資額の少なさが原因であると述べています。

このような近年の鉱山における事故についてメディアが高い関心をもって報じているので、中国の人々がこのことについて職場で、あるいは昼食のときに話していると想像することは難しくありません。この新聞記事について同僚たちの間でどのような会話がなされ得るか想像してみましょう。

おそらく、鉱山における高い死亡率についてショックを受けた人たちがいるでしょう。例えば、だれかがこう言うかもしれません。「中国の鉱山を、世界のどの鉱山とも同じくらい安全なところにすべきだ。」また、亡くなった人を悼み、ひどい状況にあることに怒りながら、「ひどいことだ。とても悲しいことだ。」と言うかもしれません。会話が進むにつれ、どうすることができるかという話になるかもしれません。「中国はこれよりももっと良いことができる！十分な資金と時間をかければ、中国の鉱山も安全にすることができる。」そして、会話が終わりに近づくにつれ、人々はうなずきながら、「いつか状況は良くなると思うよ」と言うかもしれません。

では、この架空の会話について、枠組みを用いて調べてみましょう。この架空の会話には理不尽なことが含まれていますか。おそらく理不尽なことはないと思いますが、この会話の中にどのように御国のことが示されているのでしょうか。

鉱山は安全であるべきだ: 「あるべきだ」や「あるべきでない」という言葉を聞いたなら、それは私たちのストーリーにおける創造の部分に関わることを聞いたこととなります。「べき」とは、元来意図されていた創造の構造を示す言葉です。

ひどいことだ。とても悲しいことだ: このような言葉は、私たちのストーリーにおける墮落の部分を示すものです。人々が現状に対して悲しんでいるとき、彼らは腐敗してしまった創造の構造について語っています。この場合では、鉱

業はエネルギーを得るための創造の構造です。創造のみわざにおいては、きれいで安全なエネルギー源となるように命じられましたが、墮落のゆえに現状はそうではありません。

中国はもっと良いことができる:「できる」とは贖いを示すものです。それは、腐敗した構造を神が意図された姿に戻すことについて語っているからです。

いつか状況は良くなると思うよ:この言葉はより良いものを切望する人間の心を示します。私たちはこの世におけるすべてのものが正しくされる、最終的な回復のときを待ち望んでいます。

技能 2: 文脈を評価する

あなたの周りで交わされている会話において福音が納得のいく仕方で伝わるように、会話の構造と方向性を見極める

福音のどの章について語られているかを理解したなら、「構造」と「方向性」(「ミニストリーの性質」参照)という概念を用いて、キリストの贖いの目的に照らし合わせながら、語られていることを分析することができます。

ある状況において、どのような創造の構造が関わり、会話がどの方向へ(より腐敗した方向か、神の意図された方向か)進んでいるかを理解したなら、話をどのように進めたらよいかわかります。「構造」と「方向性」についての詳細は「ミニストリーの性質」を参照してください。

「構造」と「方向性」について尋ねるために、3つの基本的な質問があります。

・話の中でどのような創造の構造が関係しているか?もしかしたら2つ以上あるかもしれません。このことは私たちのストーリーにおける創造/原状に関係します。「付録1: 創造の構造」参照。

・その構造はどの方向に向かっているか?それはなぜか?その構造において腐敗の方向、あるいは贖いの方向ははっきりと示されているか?ここでは、墮落/現状の章に関する話か、贖い/可能性の章に関する話かを見極めます。

・もし墮落の方向がはっきりと示されているなら、それを贖いの方向に変えていくにはどうしたらよいか?あるいは、その構造を神が意図しておられた方向に戻すにはどうしたらよいか?

会話のこの部分において、人々がある状況に対してどのように受け止めているかを発見するようにします。この世の墮落した状態に驚いているのでしょうか。なぜこの世がそうなっているのか彼らは説明することができるのでしょうか。彼らは問題の一部でしょうか。解決の一部でしょうか。その問題を定義することに彼らはどこまで話をする気があるのでしょうか。彼らは責任の所在をどこに置いているのでしょうか。

また、この世のパターンを明らかにするための質問をすることによって、相手の考えを挑発することもできます。御国のストーリーのどの部分は直観的に理解できるのでしょうか。どの部分は直観的には納得がいかないのでしょうか。御国の価値観を示すことによって、彼らがそれをどのように受け止めるかを見てみるのもよいでしょう。

西洋文化は、かつて公の生活を支えていた道徳的、倫理的な基礎から離れていっています。そのため、西洋においては、職場の同僚たちは罪や個人的な責任というテーマに関わることについては一切話したがりないかもしれません。会話において、そのような事柄について彼らが何をどのように避けているか、あるいはこの世における良いものについてどのように説明するか、探り、見極めることができます。

技能 3: 心の応答を評価する

特定の状況に対して、ある人がどのような心の応答を示すか見極めるとき、私たちはその人が実際の生活で経験することと御国のストーリーとを、知的な理解でなく、感情的にどのように関連づけているか、共感しているかを理解しようとしています。

共感することは、真理とより幅広い世界とを結びつけるのを助けてくれます。私にとって良いことは、たぶんあなたにとって良いことです。他の人にしてもらいたいと思うことを、自分も他の人にしよう、という動機を与えてくれます。ですから、ある人がある状況において感情的にどのように関わるかを知ることによって、その人がより幅広いスケールにおいて福音の真理について考えるのを助けることができます。

感情を見極め、その感情を御国物語の正しい部分とつなげることによって、会話をどの方向に進めていくべきかを見極めることができます。あなたの友人や同僚たちが彼らの周りの世界にどのように関わっているかを理解する、5つの基本的な質問があります。

1 特定の状況に対してどのような感情を抱いたか？ 怒り、屈辱、悲しみ、高慢、妬みなど、ストーリーのどの部分について話すかによって、相手は様々な感情を抱く可能性があります。

あなたの友人が抱いている感情と物語の特定の部分とをつなげることによって、その人はすでにそのストーリーの真理について自然と同意していることを見始めることができます。このように質問し、見極めるのを助けるプロセスは、次の3つの質問を導きます。

2 人間の心は何を切望しているか？ 人間の心が切望しているものは、それを生じさせる感情と同じくらい様々なものがあります。様々なもののうち、よく見られるものは、愛、正義、正当な評価、あわれみ、復讐心、赦し、といったことです。

3 その人のその状況に対する直観的な反応は何か？ 私たちは真理の存在を否定するかもしれませんが、私たちの人格のうちにある直観はより知っています。私たちは自然に、不正に対して叫び、正義に対して拍手します。私たちの良心は墮落していて、いつも正しく状況を評価するわけではありませんが、その人にとって正しいと思われることを見極めることは、その人の良心がどの程度墮落しているかを知るだけかもしれませんが、彼についてより理解するのを助けてくれます。

4 異なった考えや行いを選ぶとしたら、その人の品性はどのように影響されるか？ 人生においてどのような選択をしていくかは、私たちのあり方、また将来の私たちのあり方を形づくりします。一つの不法行為は、さらに大きなレベルでの不法をしやすくさせます。小さな偽りは大きな偽りをもたらし、少しごまかしたり、盗んだりすることは、良心を腐敗させ、より悪い不法をもたらします。それに対して、一つの良い選択は、次の良い選択をしやすくさせます。友人に自分の行いの影響について考えるように助けることによって、その人が2つの異なった将来を想像し、そのうちのどちらを選ぶかを助けることになります。

5 イエス様の贖いの愛はその状況について何を語っているか？ どのような状況においても、神のことはほめることと、とがめることがあります。神の愛と聖さは正義、真理、あわれみを命じています。また、主は憎しみ、屈辱、傲慢に立ち向かわれる方です。

技能 4: 根底にある信念を評価する

理解しているかどうかは別にして、だれもが世界観、つまり自分が生活している世界を納得いくものにしようとする考え方を持っています。そして、どの世界観も次の3つの質問に対する答えを出そうとします。人生の目的は何か？人生の意味は何か？私たちの住んでいる世界は何が間違っていて、どのように直すことができるか？クリスチャンの世界観は、これらの質問に対して、創造、墮落、贖い、回復(達成)、という御国のストーリーを通して答えます。

相手の世界観や信念をどのように評価することができるでしょうか。特に、必ずしも表面的なものではなく、無意識の領域に埋められている信念についてはどうでしょうか。その人の言葉や行いの奥にある基本的な信念は何でしょうか。どの部分は正しいでしょうか。どの部分は指摘する必要があるでしょうか。信念を評価するにあたり、それが実際の現実と一貫しているかを尋ねます。それは理にかなっているでしょうか。実際に機能するでしょうか。

ニック・ポラードは「Evangelism Made Slightly Less Difficult」の中で、「積極的な破壊」というプロセスについて説明しています。vii このプロセスで大切なことは、人々に一貫性のなさや、心の奥深くに抱いている信念が正しくないことを示すことです。自分の信念に対して違和感を抱くなら、多くの人々は新しい真理について考えることに心を開くようになり、福音についてより心を開きます。以下の5つのステップはポラードの著書を参照したものです。このプロセスは、人々に自分が信じているものが何であるかをはっきりと理解させ、必要ならば、正しくない信念について手放すように促すものです。

根底にある信念を評価するためのこの5つのステップは、あなたの友人や同僚が表した考えや信念を理解することを助けます。しかし、これによって人の心を読む人、あるいは心理学者になれるわけではありません。あなたが得た洞察に対して相手が同意しないなら、それは単なる思い込みに過ぎないのです。

1 観察: 心の深い感情や確信を示すヒントとなる行いや言葉は何か？感情や確信がないことを示すヒントとなる行いや言葉は何か？言葉と行いとの間の一貫性のなさを見ることができるか？

私たちの生活の表面に現れる目に見える行いや耳に聞こえる言葉は、より深いレベルで何が起きているかを示すヒントとなります。私たちの生活や行いは根底にある信念によって形作られ、導かれますが、私たちはほとんどそのことについて考えません。しかし、根底にある信念についてあまり深く考えないために、それらがなかなか一致しないことがあります。

私たちは相手の一貫性のなさだけでなく、一貫しているところも探します。しばしば人々は、自分の行いを大目に見るためにある信念を選びます。例えば、ある人は自分の性的な行いについて特定の信念を抱きます。それは、物事を良く考え、自分の信念に従って生きるか、自分の信念とライフスタイルの間にある矛盾を知りながら生きるかを論理的に考えて選択する代わりに、自分がすでに選んでいる生活を優先するためです。今日の社会では、しばしば、同じ人が相容れない信念を同じくらい強く確信している場合があります。違和感なくそうすることができるのは、抱いている信念を精査していないときのみです。私たちの目標は、人々が自分の信念について違和感を感じるできるように、よく考えることを促すことです。

2 質問: 相手の傾向を観察したからといって、その人の特定の行いが本当に何を意味しているかを理解したと仮定するのは間違いです。観察するとき、その人の行いの意味を明確にするために以下のような質問をする必要があります。「それはどういう意味ですか？あなたはこう言っていました、その通りですか？なぜそう思うのですか？それはあなたにとって大切なことですか？なぜですか？」このような質問はその人が自分の思っていること、信じていることを明確

にするのにも役に立つ方法です。

3 **信念を評価する**:相手の信念を理解したなら、その人の信念のどの部分が正しく、どの部分が間違っているかを見極めます。正しいかどうかを見極めるために、論理における3つのルールがあります。真理は理にかなっている、真理は現実に合致する、真理は機能する、の3つです。

理にかなっているか? もし論理的な一貫性を欠いているなら、それは正しくありません。

現実に合致するか? 真理は現実の世界を正しく表し、現実と一貫しないものを持ちません。

機能するか? 間違っただけをして機能しないとき、真理は機能します。(機能することがすべて正しいのではありません。例えば、賄賂は私たちが望むものをもたらす、機能するかもしれませんが、それはなおも罪です。)

あることが正しいかどうか、私たちが自分に問いかける質問そのものが、相手が抱いている信念の間違った部分を示すことを助けます。「それは興味深いですね。でも、どのように機能するのですか。」「あなたがそのような考えを抱いているのはわかります。しかし、それを現実の世界でどのように用いることができますか。」「あなたが言っていることがわかったように思えますが、この部分で一貫性に欠けることについて考えたことはありますか。」

4 **正しいことを認める**:だれもが御国の**ストーリー**のある部分を正しく理解しています。相手が語ったことの中で正しいことについては、躊躇せずに励まし、認めましょう。その正しい信念をきっかけとして用いながら、正しくない信念を指摘しましょう。例えば、ある人が自分の子どもを愛していると言いつつ、人生には価値がないと信じているなら、愛をきっかけに、人生の価値について話しましょう。

5 **間違っていることを指摘する**:間違っている信念を指摘するときに最初に守るべきルールは、いつもへりくだって接することです。私たちクリスチャンは、いつも正しいわけではありません。神の真理は絶対ですが、それを理解する私たちの能力はそうではありません。しかし謙遜な心を持ちながら、恐れずに、間違っただけを優しく指摘しましょう。例えばこのように言うことができます。「こういうことを考えたことはありますか。」「あなたの言っていることに一貫性が欠けていることに気づいていますか。」真理に基づいていない考えを指摘する目的は、相手に自分は本当に何を信じているのかということについてよく考えるように助けることです。口論をしたり、私たちの正しさを証明しようとしたりすることではありません。

結論

会話は芸術です。それは、他の人たちに効果的に影響を与える人々がみな、やがて身につけるものです。この論文は、会話に**精通**するためのプロセスを始めるための一つの方法を示したものです。ここに記した4つの技能を用いて、会話術を高めていきましょう。スーザン・スコットは優れた著書である「Fierce Conversations (荒々しい会話)」でこう述べています。「私たちの仕事、関係、そして事実、私たちの人生そのものは、一回の会話ごとに少しずつ、そして突然に成功したり、失敗したりするのである。だれも変化する必要はないが、だれもが会話をする必要がある」viii あなたの周りにはいる人々に人生についての会話に参加するように上手に呼びかける者となることを決心しましょう。

会話術 パート1

- i メデフィンド&ロックスムー, *The Revolutionary Communicator*, Relevant Books, Lake Mary, FL, U.S.A. Page 26
- ii 同上
- iii 同上
- iv *The Revolutionary Communicator* page 66
- v ニック・ポラード, *Evangelism Made Slightly Less Difficult*, InterVarsity Press, Downers Grove, IL, U.S.A. page 90
- vi *Evangelism Made Slightly Less Difficult*, page 31
- vii *Evangelism Made Slightly Less Difficult*, page 48
- viii スーザン・スコット, *Fierce Communications*, page 1